



中原区区民アンケート 概要版

平成30年9月

川崎市中原区

○調査の目的

この調査は、区政に対する区民の意識、要望を、地域特性を踏まえて多面的に調査を行うことで明らかにし、調査結果を区政運営や地域課題の解決に係る基礎資料として活用することを目的として実施した。

○調査の方法

- (1) 調査地域 川崎市中原区全域
- (2) 調査対象 区内に在住する満18歳以上の男女（外国籍の区民を含む）
- (3) 標本数 2,000サンプル
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳に基づく単純無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査期間 平成30年5月15日（火）～5月31日（木）

○調査の項目

- (1) 区民の定住性
- (2) 生活環境評価
- (3) 区役所業務の評価・区のイメージ
- (4) 中原区役所の広報
- (5) 中原区役所の環境
- (6) 子育て支援
- (7) 地域包括ケアシステム
- (8) 自立的な活動
- (9) 地域の支え合い
- (10) 在宅療養
- (11) 防災対策
- (12) ペットに関する防災対策

○回収状況

- (1) 調査票配布数 2,000
- (2) 有効回収数 1,135（有効回収率 56.8%）

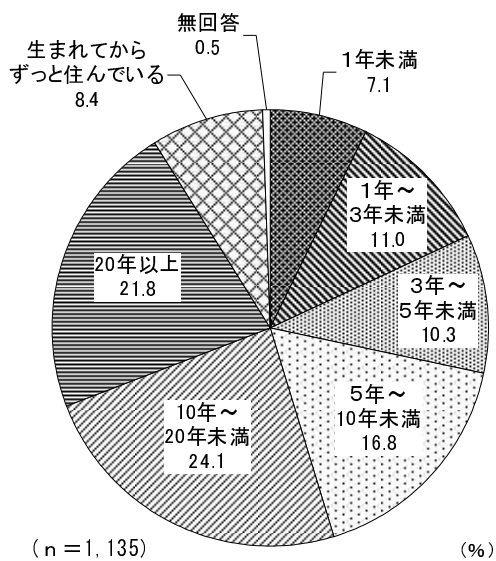
○この概要版の見方

図表中の「n」は、各質問の回答者数を示す。回答の比率（%）は、nを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで示した。したがって、選択肢の中から1つだけ回答を選ぶ質問であっても、すべての選択肢の比率の合計が100.0%にならない場合がある。また、選択肢の中から複数の回答を選ぶ質問では、すべての選択肢の比率を合計すると通常100.0%を超える。

1. 区民の定住性

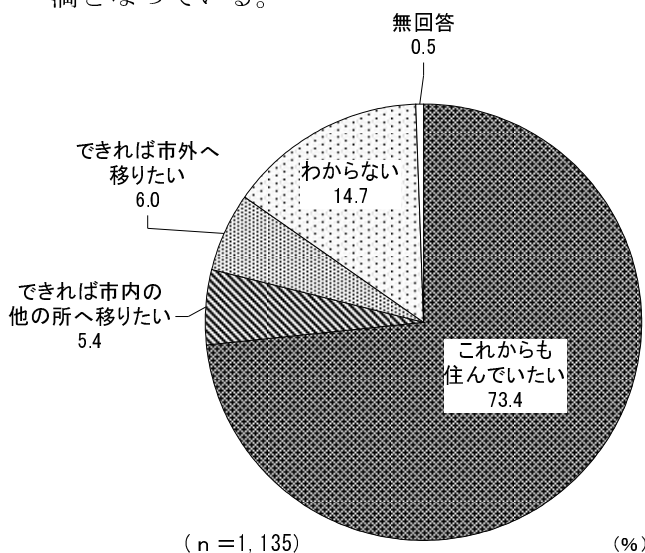
(1) 居住年数

「5年～10年未満」(16.8%)と「10年～20年未満」(24.1%)の2つを合わせた『中期居住者』(40.9%)が約4割と高くなっている。「1年未満」(7.1%)、「1年～3年未満」(11.0%)、「3年～5年未満」(10.3%)の3つを合わせた『短期居住者』(28.4%)は3割近くで、「20年以上」(21.8%)と「生まれてからずっと住んでいる」(8.4%)の2つを合わせた『長期居住者』(30.2%)は3割となっている。



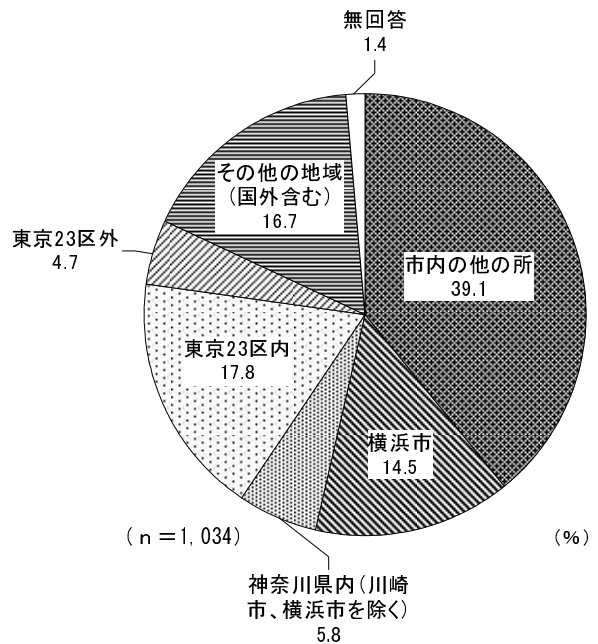
(3) 定住意向

「これからも住んでいたい」(73.4%)が7割を超え、これに「できれば市内の他の所へ移りたい」(5.4%)を合わせた『市内に住みたい』(78.8%)が8割近くで高くなっている。一方、「できれば市外へ移りたい」(6.0%)は1割未満となっている。



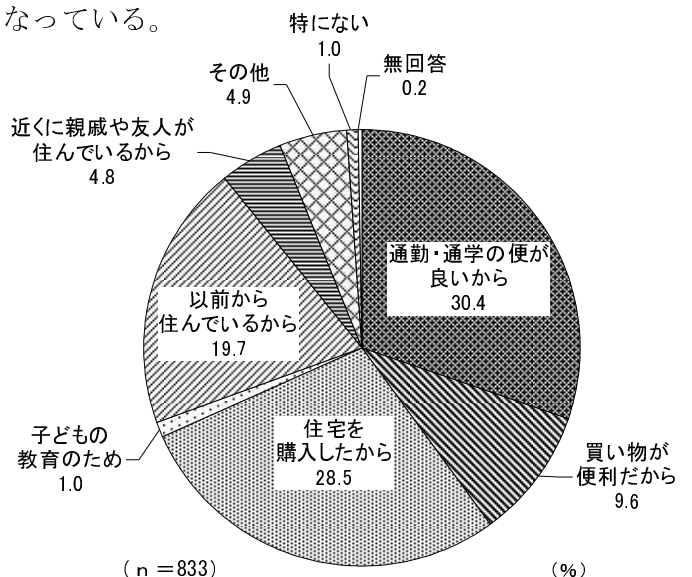
(2) 以前の居住場所

今の所に「生まれてからずっと住んでいる」以外と回答した方(1,034人)に、以前の居住場所を聞いたところ、「市内の他の所」(39.1%)が約4割で最も高く、次いで「東京23区内」(17.8%)、「その他の地域(国外含む)」(16.7%)、「横浜市」(14.5%)となっている。



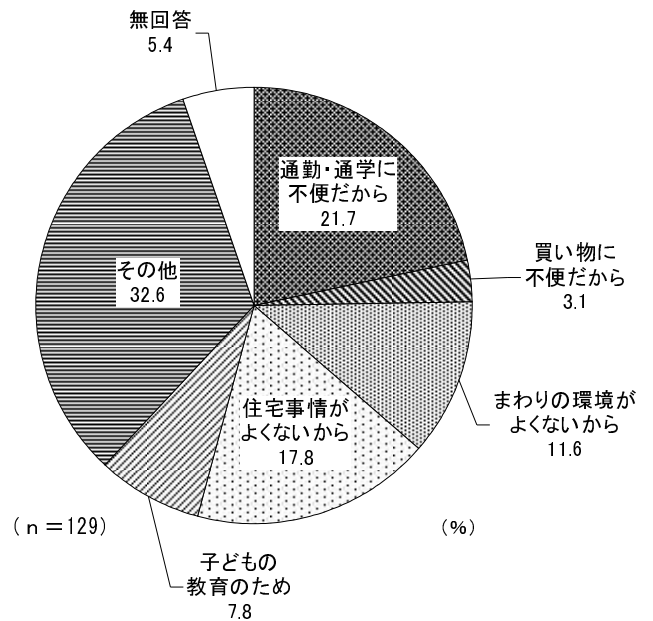
(4) 定住したい理由

今の所に「これからも住んでいたい」と回答した方(833人)に、その理由を聞いたところ、「通勤・通学の便が良いから」(30.4%)が3割で最も高く、次いで「住宅を購入したから」(28.5%)、「以前から住んでいるから」(19.7%)、「買い物が便利だから」(9.6%)となっている。



(5) 転出したい理由

今の所から「できれば市内の他の所へ移りたい」、「できれば市外へ移りたい」と回答した方(129人)に、その理由を聞いたところ、「通勤・通学に不便だから」(21.7%)が2割を超えて最も高く、次いで「住宅事情がよくないから」(17.8%)、「まわりの環境がよくないから」(11.6%)となっている。

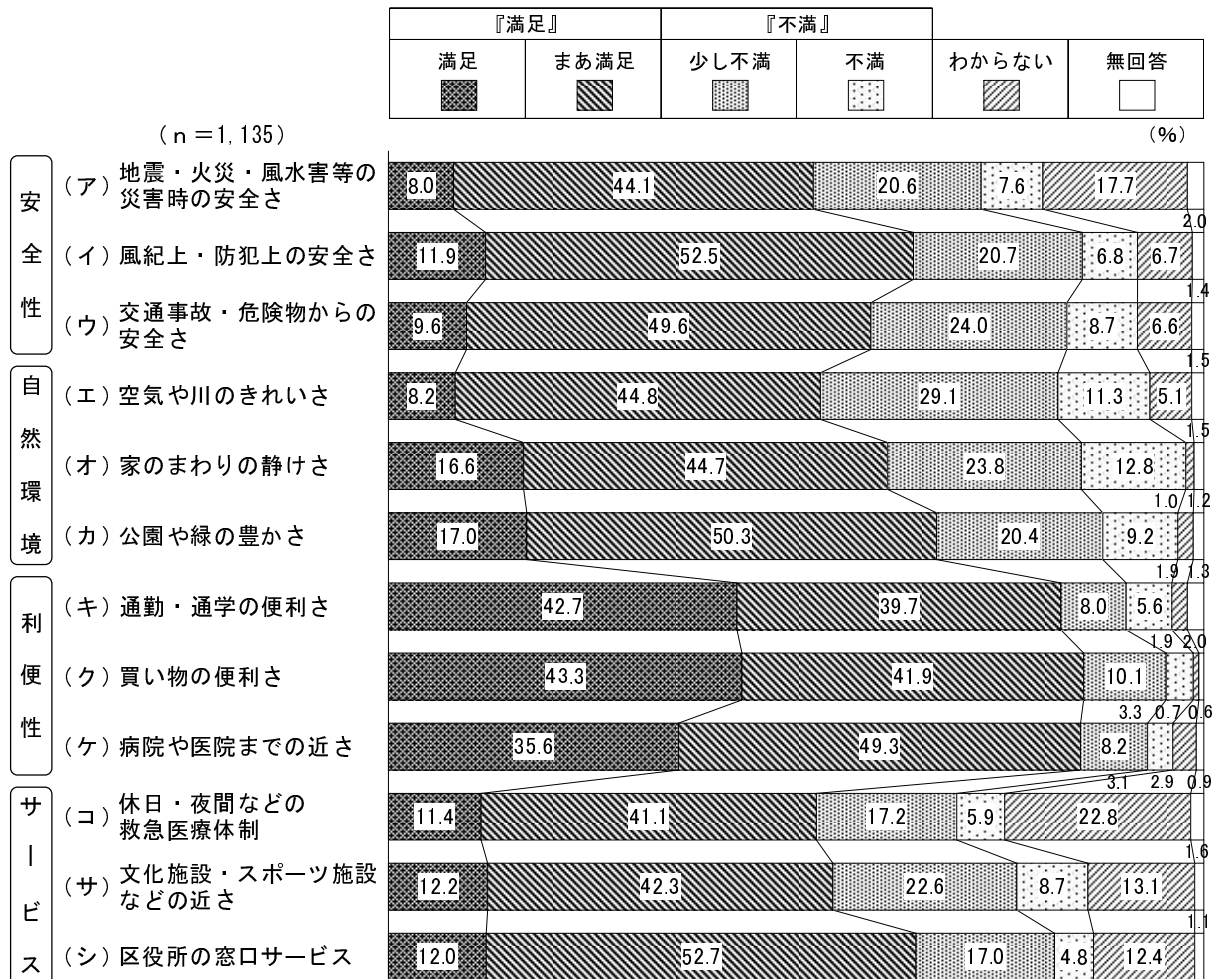


2. 生活環境評価

(1) 生活環境の満足度

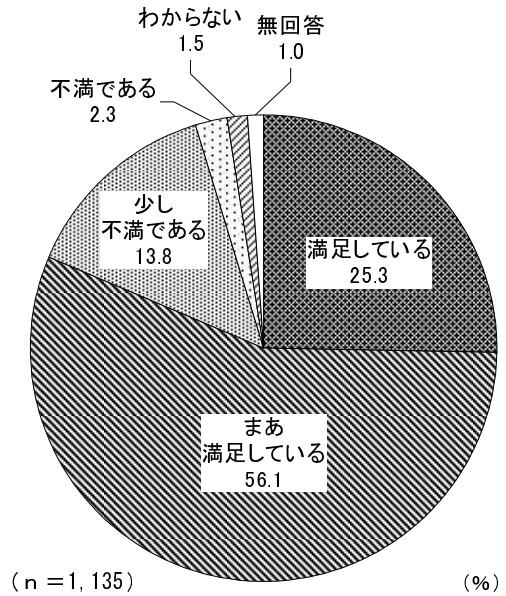
住まいの周辺の生活環境について、12項目に分けて満足度を聞いたところ、「満足」と「まあ満足」の2つを合わせた『満足』は、(ク) 買い物の便利さ (85.2%) が8割半ばで最も高く、次いで(ケ) 病院や医院までの近さ (84.9%)、(キ) 通勤・通学の便利さ (82.4%) となっている。

一方、「少し不満」と「不満」の2つを合わせた『不満』は、(エ) 空気や川のきれいさ (40.4%) が4割で最も高く、次いで(オ) 家のまわりの静けさ (36.6%)、(ウ) 交通事故・危険物からの安全性 (32.7%)、(サ) 文化施設・スポーツ施設などの近さ (31.3%) となっている。



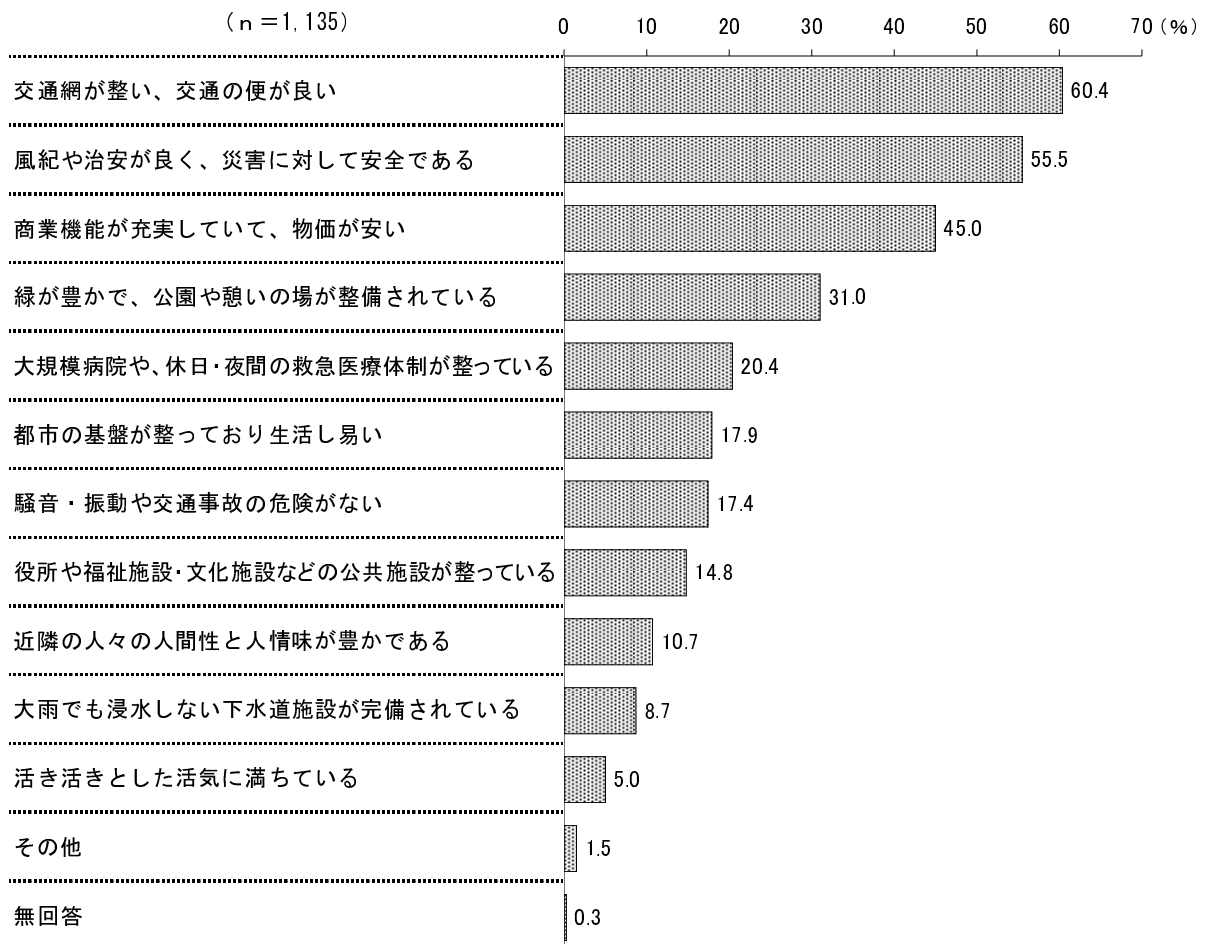
(2) 生活環境全体の満足度

地域の生活環境を総合的にみた場合、今住んでいる地域にどの程度満足しているか聞いたところ、「満足している」(25.3%)と「まあ満足している」(56.1%)の2つを合わせた『満足』(81.4%)が8割を超えて高くなっている。一方、「少し不満である」(13.8%)と「不満である」(2.3%)の2つを合わせた『不満』(16.1%)は1割半ばとなっている。



(3) 住みよい環境についての意識

住みよい環境とは、どのような所だと思いか聞いたところ、「交通網が整い、交通の便が良い」(60.4%)が6割で最も高く、次いで「風紀や治安が良く、災害に対して安全である」(55.5%)、「商業機能が充実していて、物価が安い」(45.0%)、「緑が豊かで、公園や憩いの場が整備されている」(31.0%)、「大規模病院や、休日・夜間の救急医療体制が整っている」(20.4%)となっている。

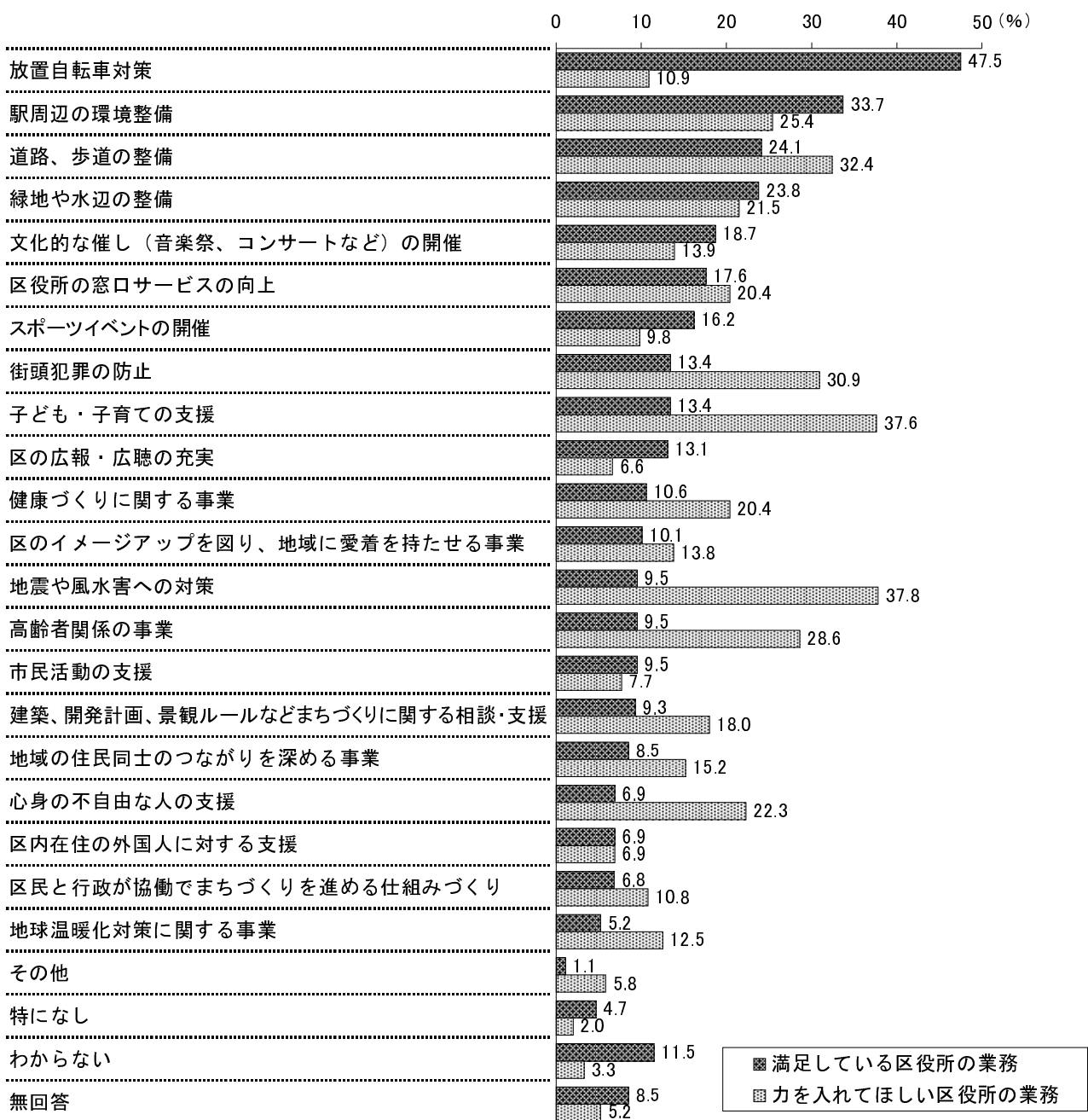


3. 区役所業務の評価・区のイメージ

(1) 満足している区役所の業務・(2) 力を入れてほしい区役所の業務

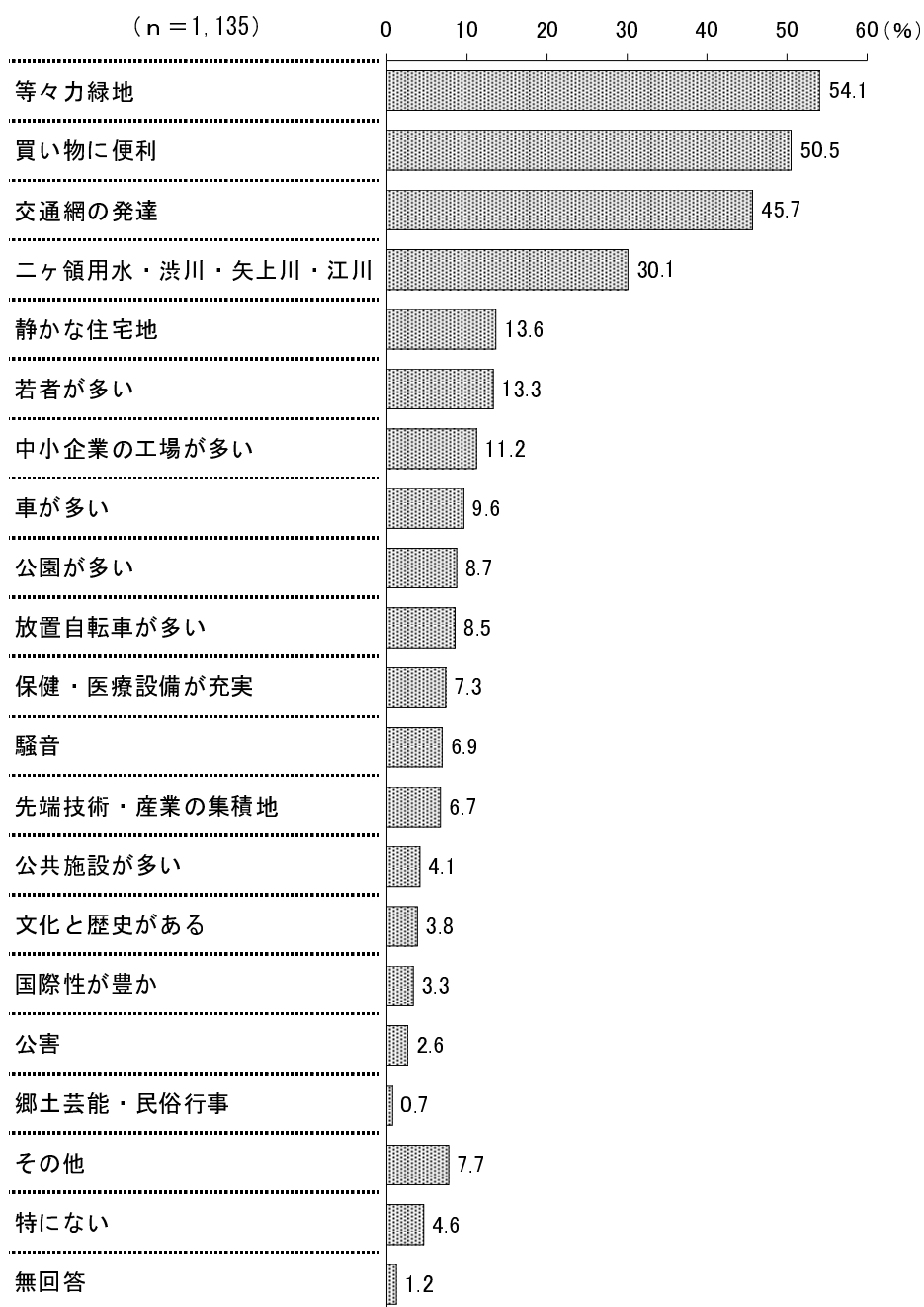
区役所の仕事で、よくやっていると思うものを聞いたところ、「放置自転車対策」(47.5%)が5割近くで最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(33.7%)、「道路、歩道の整備」(24.1%)、「緑地や水辺の整備」(23.8%)、「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」(18.7%)となっている。

区役所の仕事で、今後、特に力を入れてほしいと思うものを聞いたところ、「地震や風水害への対策」(37.8%)と「子ども・子育ての支援」(37.6%)がともに4割近くで高く、次いで「道路、歩道の整備」(32.4%)、「街頭犯罪の防止」(30.9%)、「高齢者関係の事業」(28.6%)となっている。



(3) 中原区のイメージ

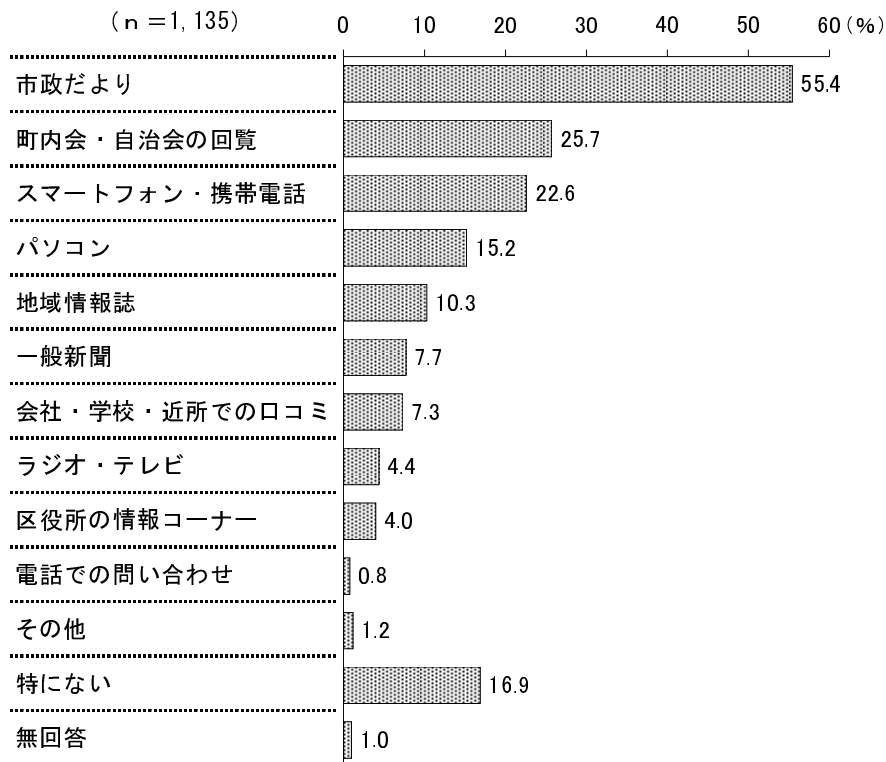
「等々力緑地」(54.1%)が5割半ばで最も高く、次いで「買い物に便利」(50.5%)、「交通網の発達」(45.7%)、「二ヶ領用水・渋川・矢上川・江川」(30.1%)となっている。



4. 中原区役所の広報

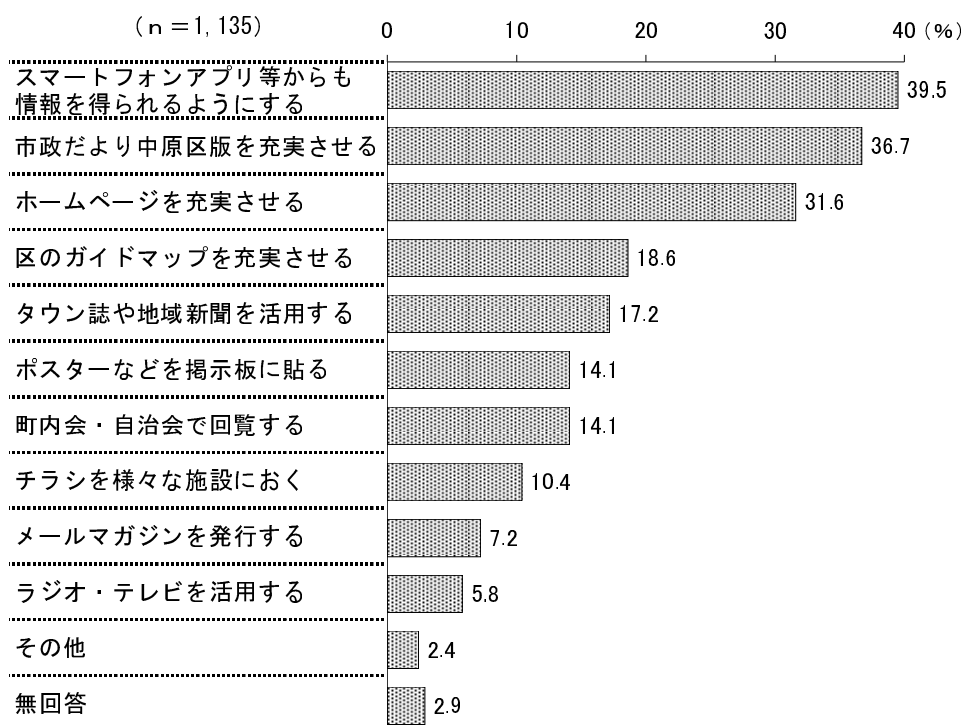
(1) 行政・地域情報の入手方法

「市政だより」(55.4%)が5割半ばで最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧」(25.7%)、「スマートフォン・携帯電話」(22.6%)、「パソコン」(15.2%)、「地域情報誌」(10.3%)となっている。



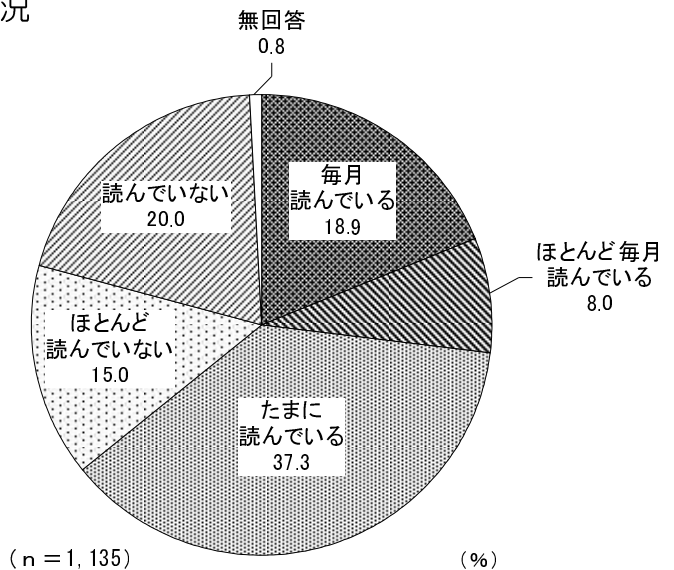
(2) 充実してほしい行政・地域情報の提供方法

「スマートフォンアプリ等からも情報を得られるようにする」(39.5%)が4割で最も高く、次いで「市政だより中原区版を充実させる」(36.7%)、「ホームページを充実させる」(31.6%)、「区のガイドマップを充実させる」(18.6%)となっている。



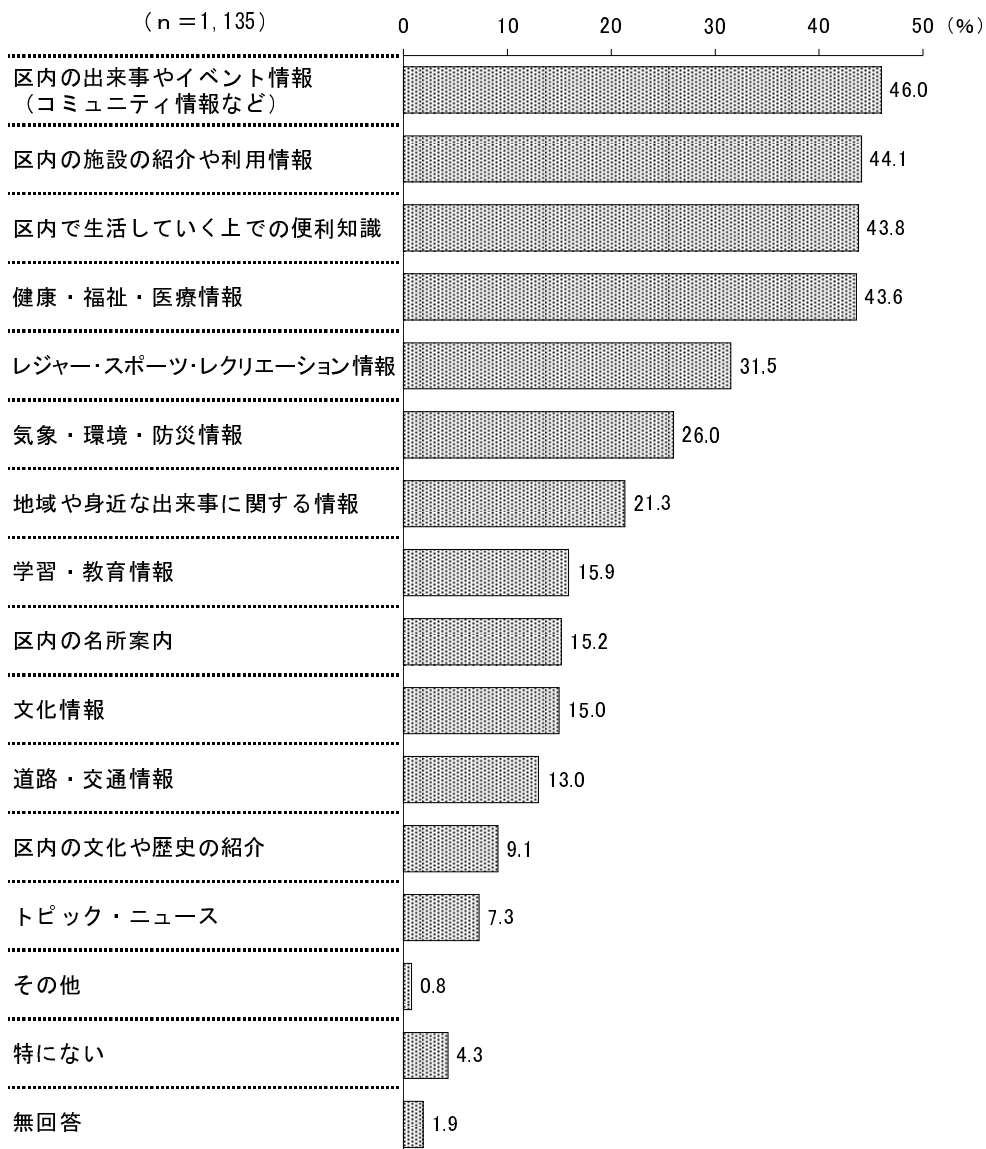
(3) 「かわさき市政だより」 中原区版の閲覧状況

「毎月読んでいる」(18.9%) が2割近く、「ほとんど毎月読んでいる」(8.0%) は1割近く、「たまに読んでいる」(37.3%) は4割近くとなっている。一方、「ほとんど読んでいない」(15.0%) が1割半ば、「読んでいない」(20.0%) は2割となっている。



(4) 充実してほしい行政・地域情報の種類

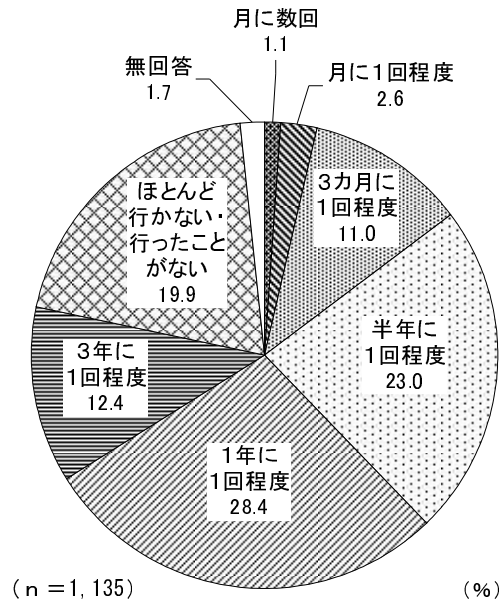
「区内の出来事やイベント情報 (コミュニティ情報など)」(46.0%) と「区内の施設の紹介や利用情報」(44.1%) がともに4割半ばで高く、次いで「区内で生活していく上での便利知識」(43.8%)、「健康・福祉・医療情報」(43.6%)、「レジャー・スポーツ・レクリエーション情報」(31.5%) となっている。



5. 中原区役所の環境

(1) 中原区役所の利用頻度

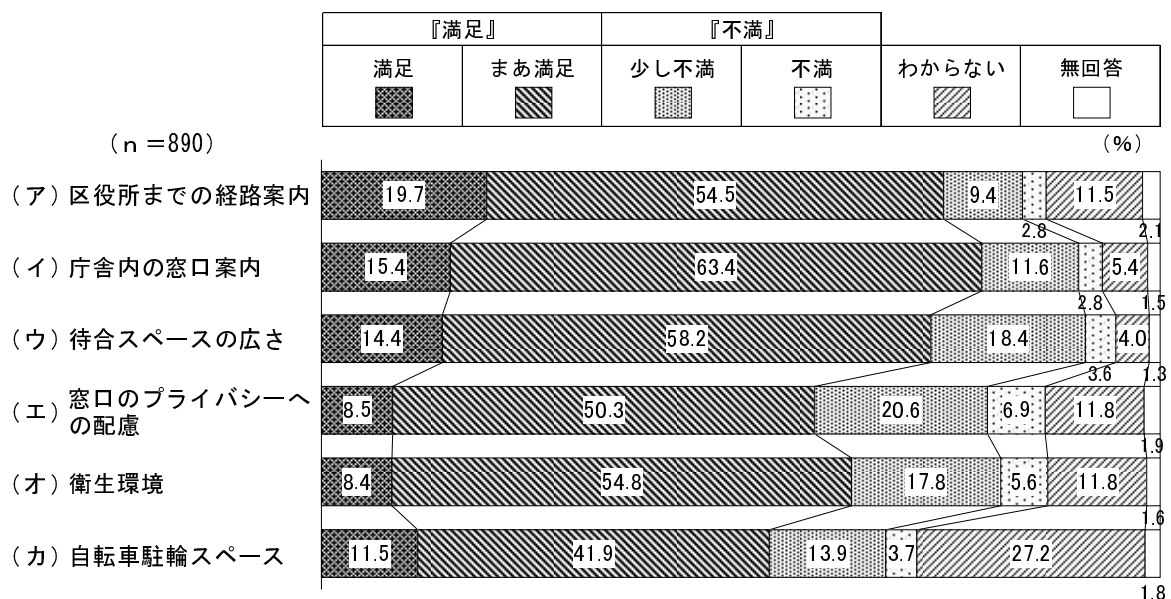
「1年に1回程度」(28.4%)が3割近くで最も高く、次いで「半年に1回程度」(23.0%)、「3年に1回程度」(12.4%)、「3カ月に1回程度」(11.0%)となっている。一方、「ほとんど行かない・行ったことがない」(19.9%)は2割となっている。



(2) 中原区役所の環境・設備の満足度

中原区役所の利用頻度で「ほとんど行かない・行ったことがない」以外と回答した方(890人)に、中原区役所の環境・設備について6項目に分けて満足度を聞いたところ、「満足」と「まあ満足」の2つを合わせた『満足』は、(イ)庁舎内の窓口案内(78.8%)が8割近くで最も高く、次いで(ア)区役所までの経路案内(74.2%)、(ウ)待合スペースの広さ(72.6%)となっている。

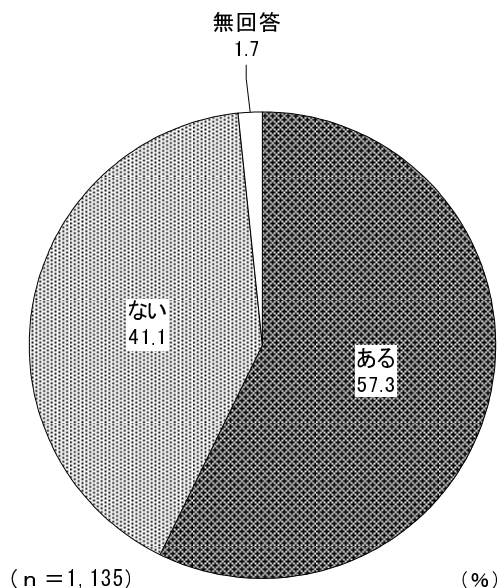
一方、「少し不満」と「不満」の2つを合わせた『不満』は、(エ)窓口のプライバシーへの配慮(27.5%)が3割近くで最も高く、次いで(オ)衛生環境(23.4%)、(ウ)待合スペースの広さ(22.0%)となっている。



6. 子育て支援

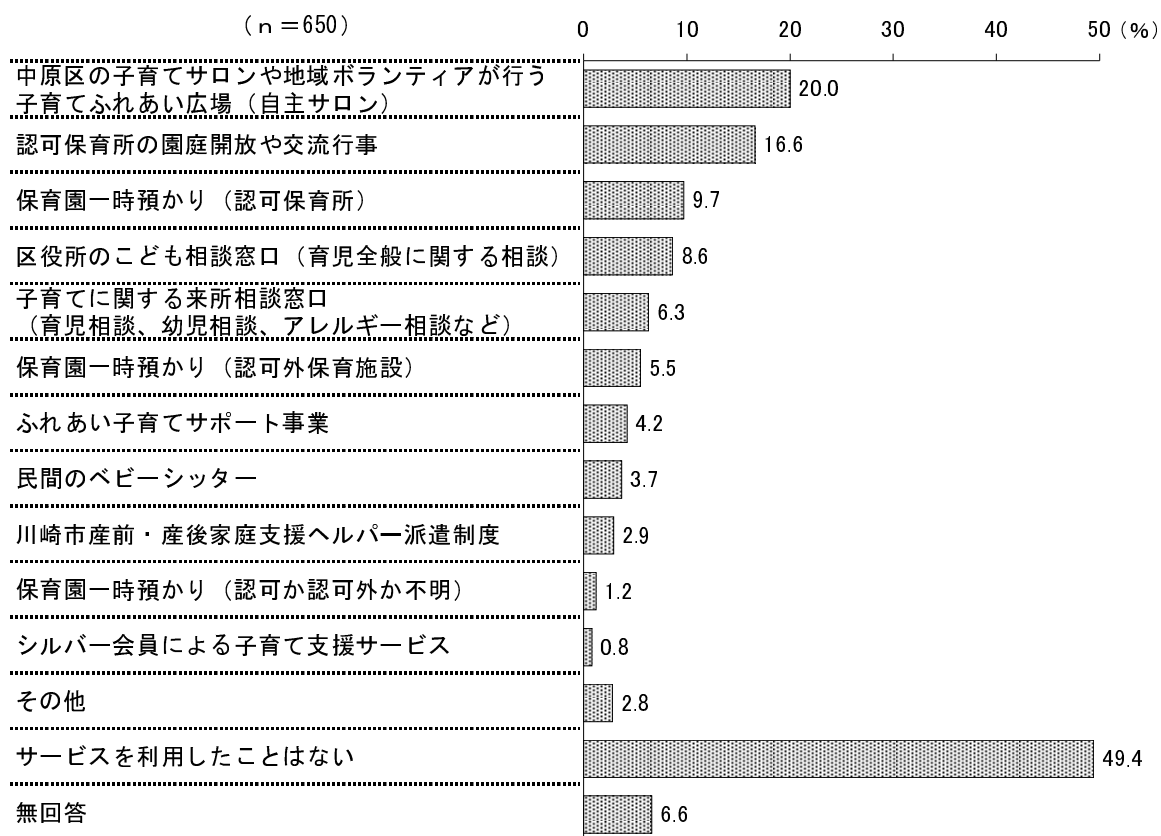
(1) 子育ての経験の有無

「ある」(57.3%)が6割近く、「ない」(41.1%)は4割を超えている。



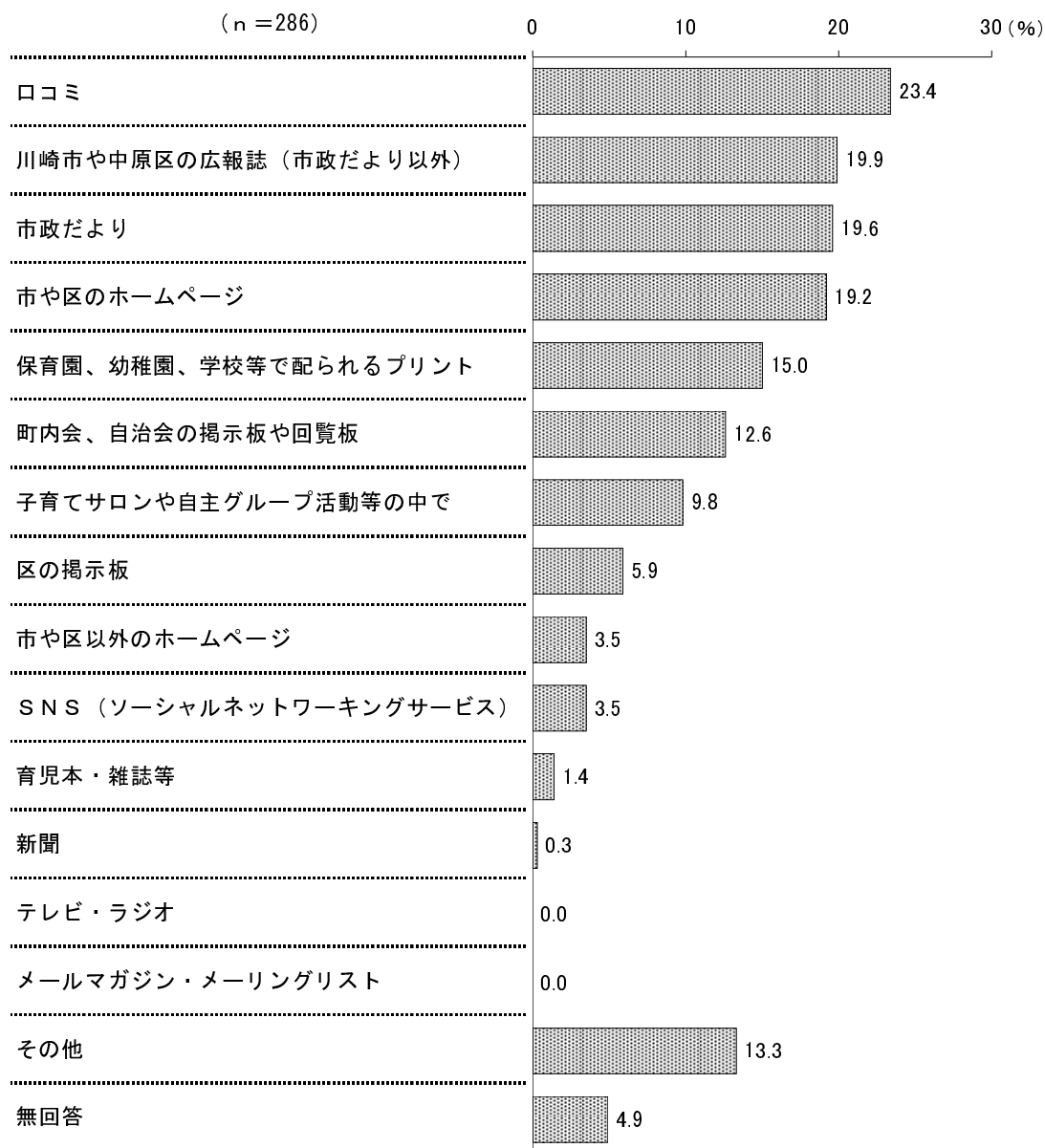
(2) 利用したことがある子育て支援サービス

子育ての経験が「ある」と回答した方(650人)に、普段利用している、もしくは利用したことのあるサービスを聞いたところ、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場(自主サロン)」(20.0%)が2割で最も高く、次いで「認可保育所の園庭開放や交流行事」(16.6%)、「保育園一時預かり(認可保育所)」(9.7%)となっている。一方、「サービスを利用したことはない」(49.4%)は約5割となっている。



(3) 子育て支援サービスを知ったきっかけ

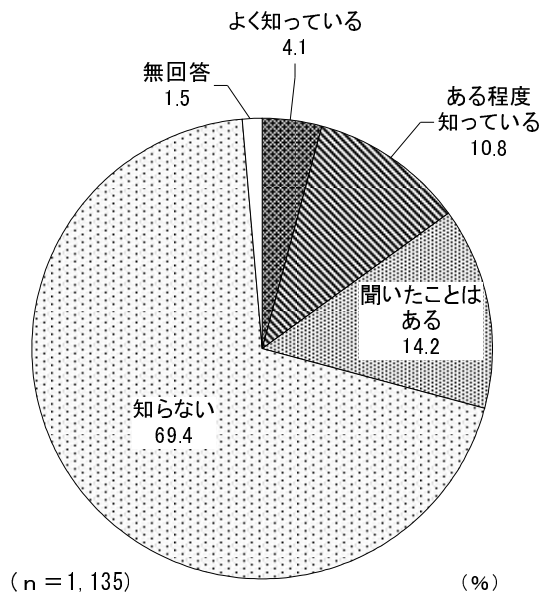
子育て支援の「サービスを利用したことはない」以外と回答した方（286人）に、サービスを何で知ったか聞いたところ、「口コミ」（23.4%）が2割を超えて最も高く、次いで「川崎市や中原区の広報誌（市政だより以外）」（19.9%）、「市政だより」（19.6%）、「市や区のホームページ」（19.2%）となっている。



7. 地域包括ケアシステム

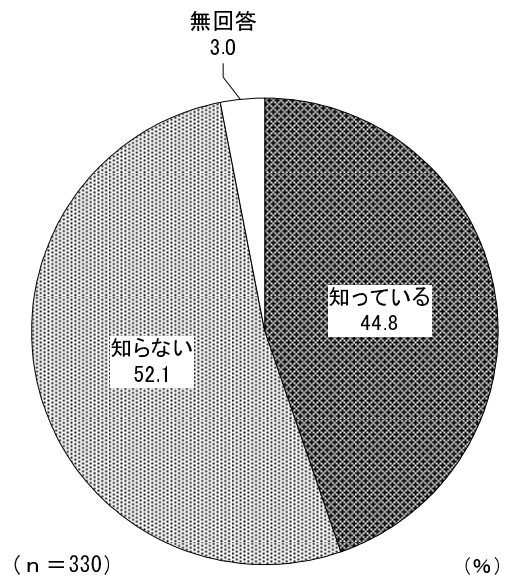
(1) 「地域包括ケアシステム」の認知度

「よく知っている」(4.1%)と「ある程度知っている」(10.8%)の2つを合わせた『知っている』(14.9%)が1割半ばとなっている。「聞いたことはある」(14.2%)は1割半ばで、「知らない」(69.4%)が約7割となっている。



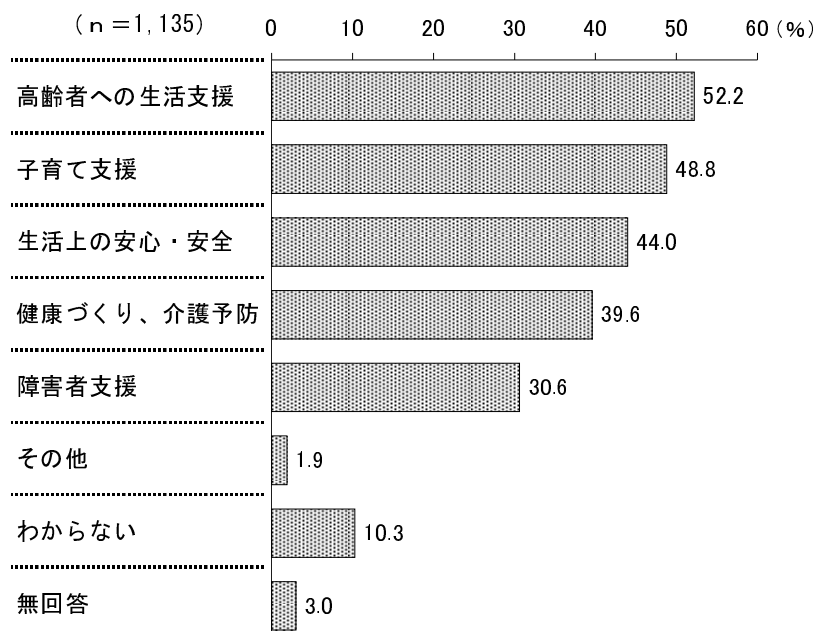
(2) 「地域包括ケアシステム」がすべての住民を対象としていることの認知度

「地域包括ケアシステム」を「よく知っている」、「ある程度知っている」、「聞いたことはある」と回答した方(330人)に、川崎市の地域包括ケアシステムは子どもから高齢者、障害者などすべての住民を対象としていることを知っているか聞いたところ、「知っている」(44.8%)が4割半ば、「知らない」(52.1%)は5割を超えている。



(3) 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと

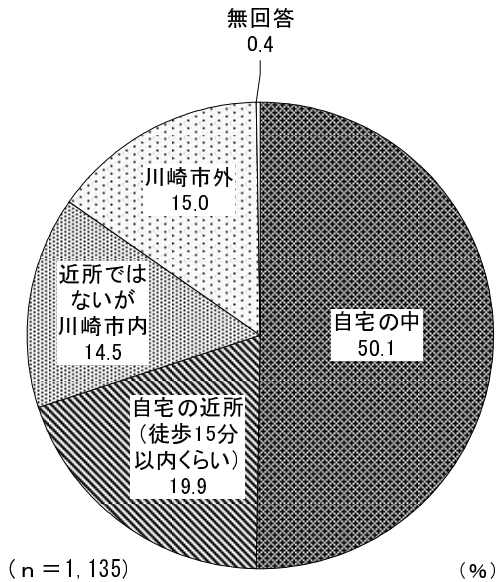
「高齢者への生活支援」(52.2%)が5割を超えて最も高く、次いで「子育て支援」(48.8%)、「生活上の安心・安全」(44.0%)、「健康づくり、介護予防」(39.6%)、「障害者支援」(30.6%)となっている。



8. 自立的な活動

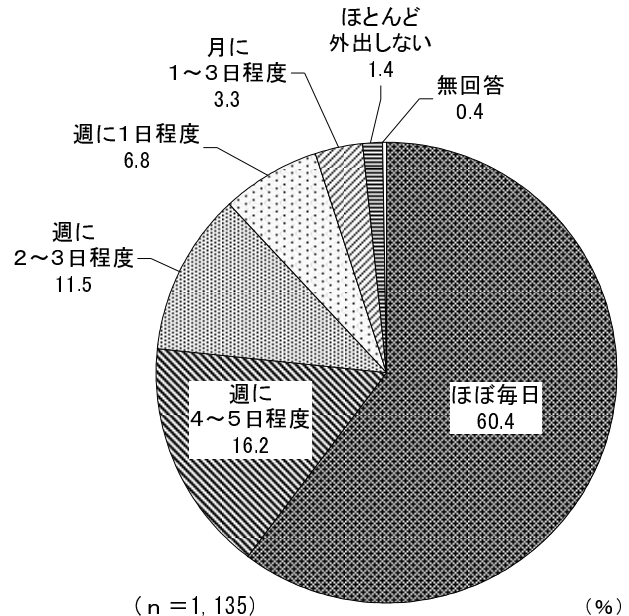
(1) 自由な時間があるときに過ごす場所

「自宅の中」(50.1%)が5割で最も高く、次いで「自宅の近所(徒歩15分以内くらい)」(19.9%)、「川崎市外」(15.0%)、「近所ではないが川崎市内」(14.5%)となっている。



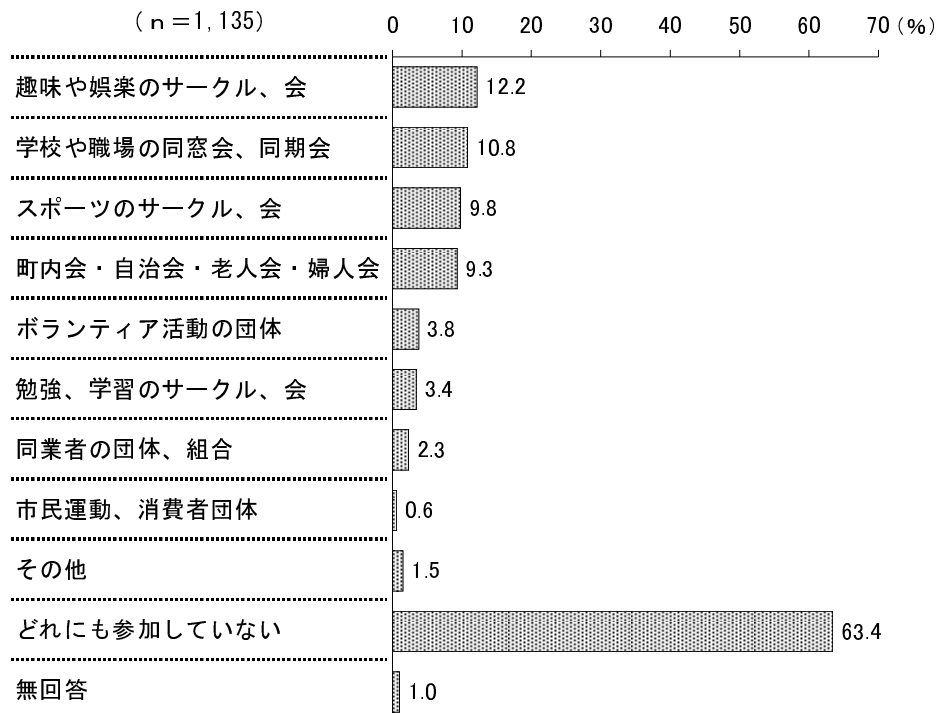
(2) 外出する頻度

「ほぼ毎日」(60.4%)が6割で最も高く、次いで「週に4~5日程度」(16.2%)、「週に2~3日程度」(11.5%)となっている。



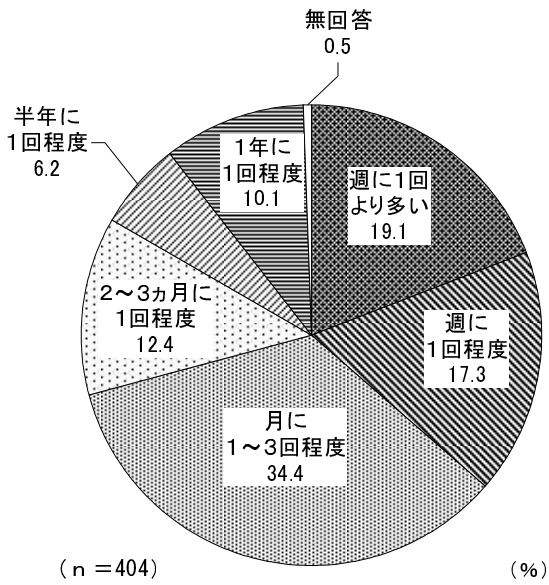
(3) グループ活動への参加状況

「趣味や娯楽のサークル、会」(12.2%)と「学校や職場の同窓会、同期会」(10.8%)が1割台となっており、次いで「スポーツのサークル、会」(9.8%)、「町内会・自治会・老人会・婦人会」(9.3%)となっている。一方、「どれにも参加していない」(63.4%)は6割を超えている。



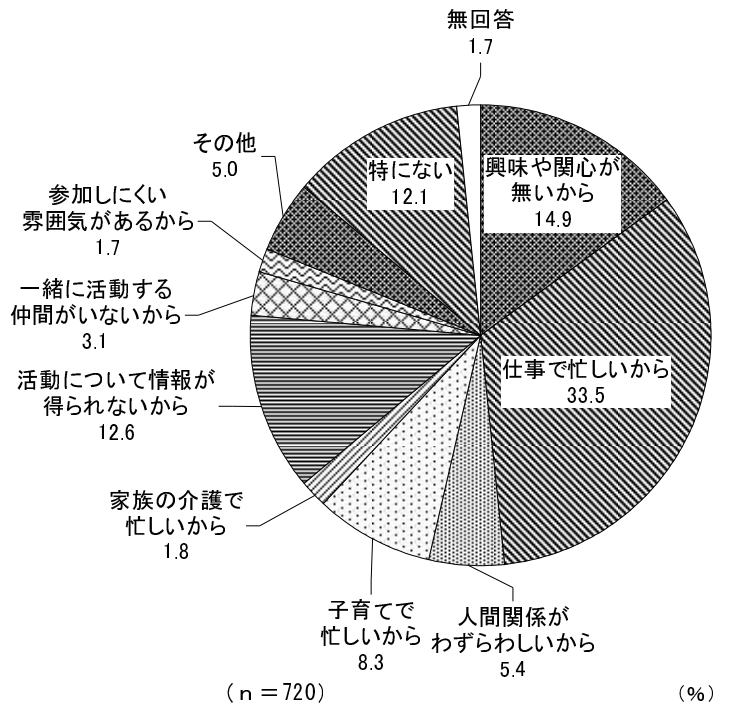
(4) グループ活動への参加頻度

グループ活動に「どれにも参加していない」以外と回答した方(404人)に、参加頻度を聞いたところ、「月に1~3回程度」(34.4%)が3割半ばで最も高く、次いで「週に1回より多い」(19.1%)、「週に1回程度」(17.3%)、「2~3ヵ月に1回程度」(12.4%)となっている。



(5) グループ活動に参加していない理由

グループ活動に「どれにも参加していない」と回答した方(720人)に、その理由を聞いたところ、「仕事で忙しいから」(33.5%)が3割を超えて最も高く、次いで「興味や関心が無いから」(14.9%)、「活動について情報が得られないから」(12.6%)となっている。



9. 地域の支え合い

(1) 地域で支え合える人の有無

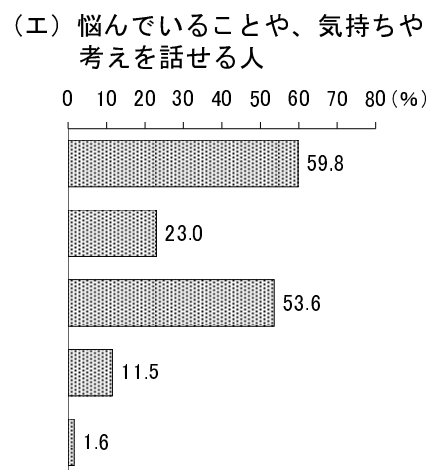
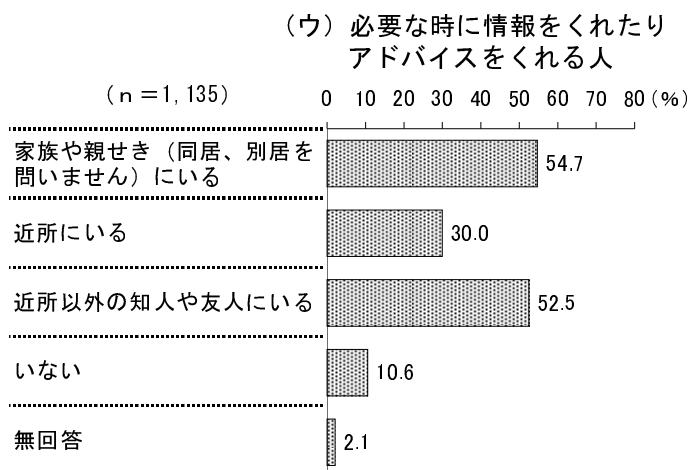
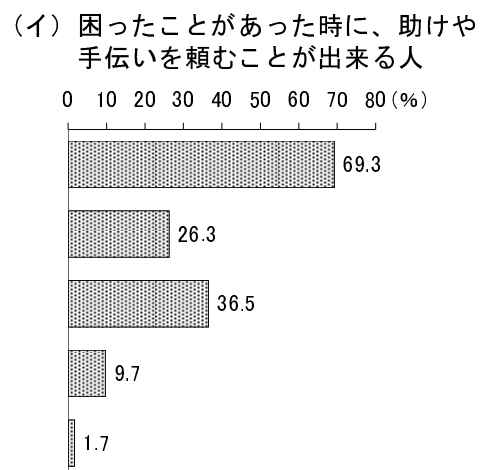
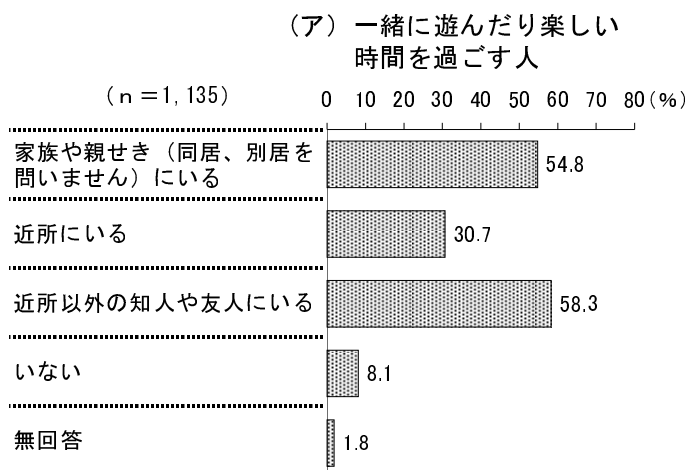
地域で支え合える人がいるか、4項目に分けて聞いた。

(ア) 一緒に遊んだり楽しい時間を過ごす人を見ると、「近所以外の知人や友人にいる」(58.3%)が6割近くで最も高く、次いで「家族や親せき(同居、別居を問いません)にいる」(54.8%)、「近所にいる」(30.7%)となっており、「いない」(8.1%)は1割近くとなっている。

(イ) 困ったことがあった時に、助けや手伝いを頼むことが出来る人を見ると、「家族や親せき(同居、別居を問いません)にいる」(69.3%)が約7割で最も高く、次いで「近所以外の知人や友人にいる」(36.5%)、「近所にいる」(26.3%)となっており、「いない」(9.7%)は1割となっている。

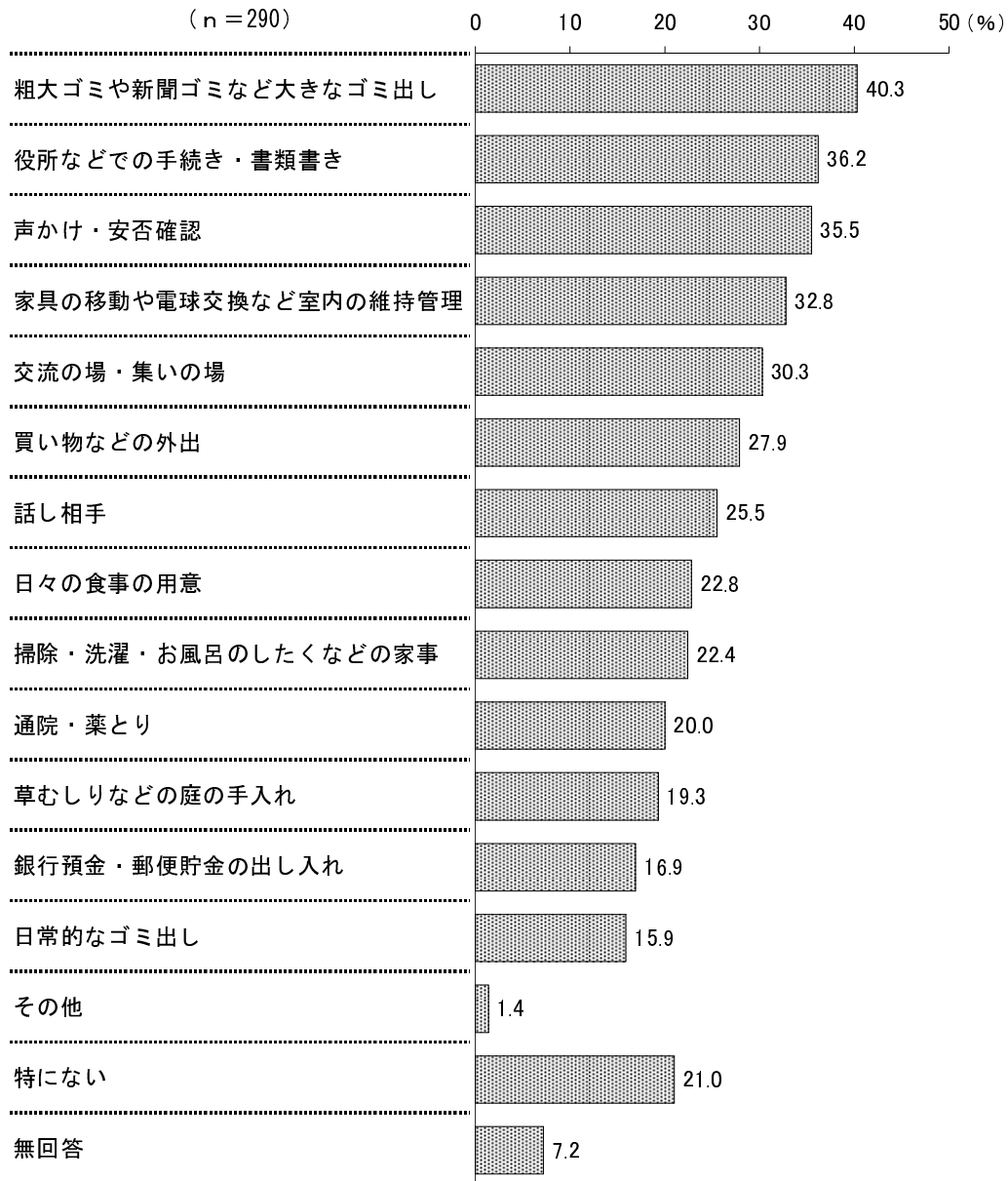
(ウ) 必要な時に情報をくれたりアドバイスをくれる人を見ると、「家族や親せき(同居、別居を問いません)にいる」(54.7%)が5割半ばで最も高く、次いで「近所以外の知人や友人にいる」(52.5%)、「近所にいる」(30.0%)となっており、「いない」(10.6%)は約1割となっている。

(エ) 悩んでいることや、気持ちや考えを話せる人を見ると、「家族や親せき(同居、別居を問いません)にいる」(59.8%)が6割で最も高く、次いで「近所以外の知人や友人にいる」(53.6%)、「近所にいる」(23.0%)となっており、「いない」(11.5%)は1割を超えている。



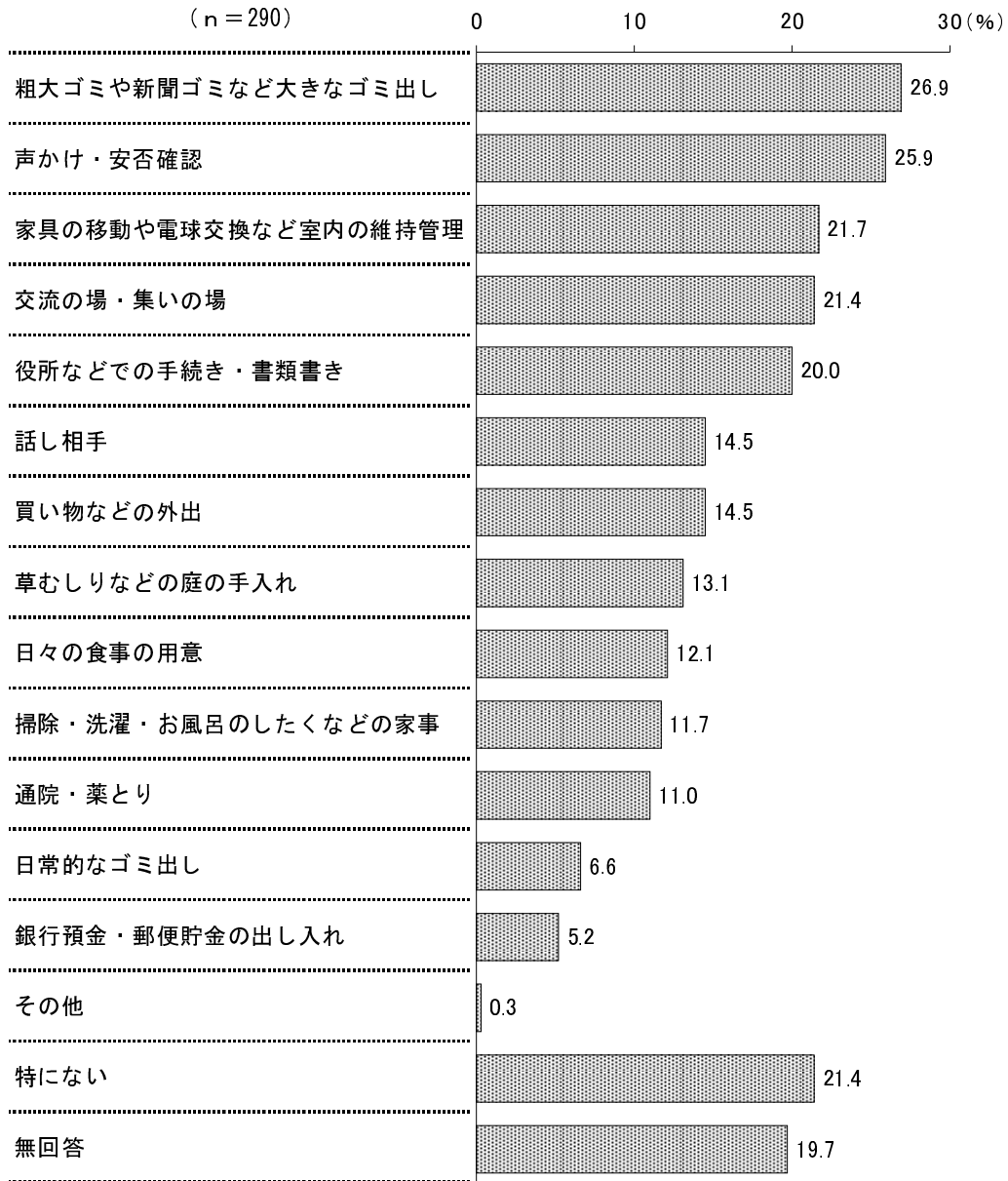
(2) 日常生活で困っていること、将来困るだろうと思うこと

60歳以上の方（290人）に、日常生活で困っていること、または将来困るだろうと思うことを聞いたところ、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」（40.3%）が4割で最も高く、次いで「役所などでの手続き・書類書き」（36.2%）、「声かけ・安否確認」（35.5%）、「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」（32.8%）、「交流の場・集いの場」（30.3%）となっている。



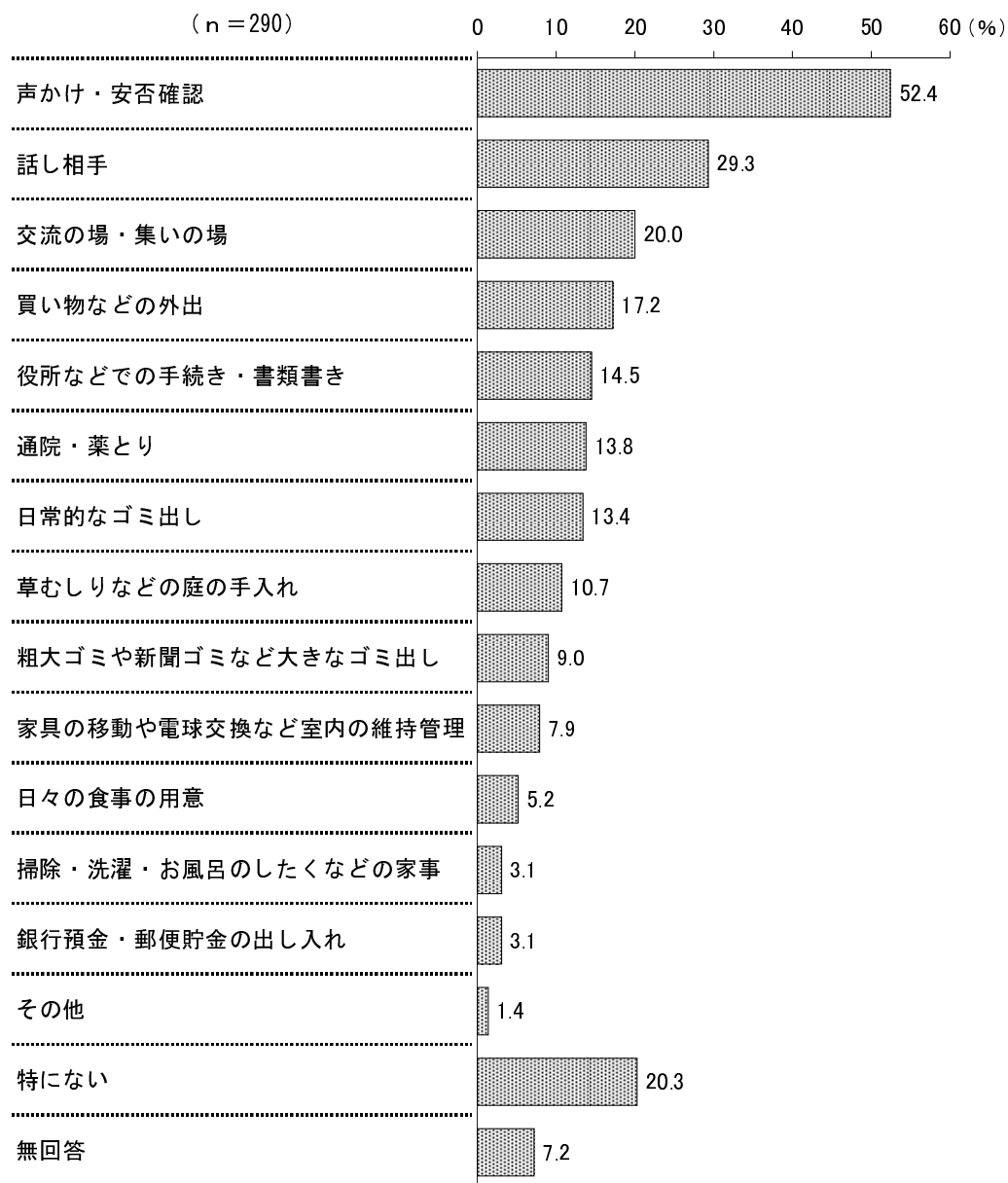
(3) 地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うこと

60歳以上の方（290人）に、日常生活で困っていること、または将来困るだろうと思うことで回答した項目について、地域の支え合いを希望する、または将来的には頼みたいと思うことを聞いたところ、「粗大ゴミや新聞ゴミなど大きなゴミ出し」（26.9%）が3割近くで最も高く、次いで「声かけ・安否確認」（25.9%）、「家具の移動や電球交換など室内の維持管理」（21.7%）、「交流の場・集いの場」（21.4%）、「役所などでの手続き・書類書き」（20.0%）となっている。



(4) 地域の支え合いに協力できること

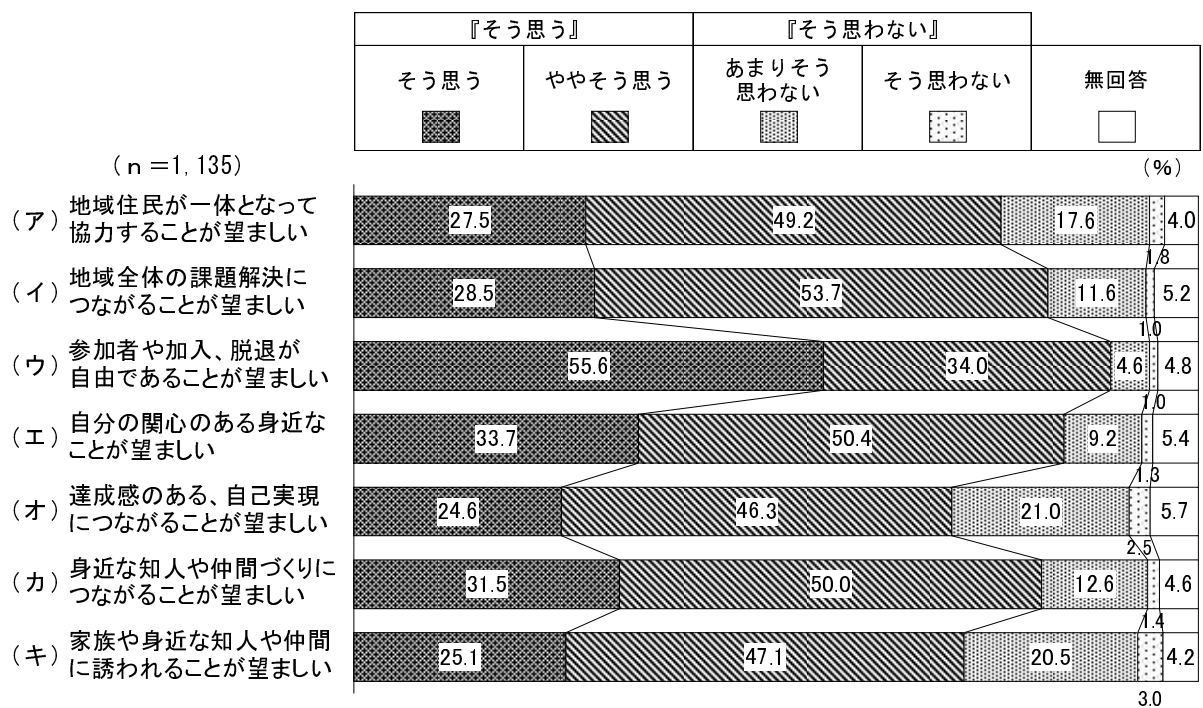
60歳以上の方（290人）に、地域の支え合いに協力できることについて聞いたところ、「声かけ・安否確認」（52.4%）が5割を超えて最も高く、次いで「話し相手」（29.3%）、「交流の場・集いの場」（20.0%）、「買い物などの外出」（17.2%）、「役所などでの手続き・書類書き」（14.5%）となっている。



(5) 「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」 についての考え

「誰もが住み慣れた地域で、安心して最期まで暮らせるよう、支えあう地域づくり」の考えについて、7項目に分けて聞いたところ、「そう思う」と「ややそう思う」の2つを合わせた『そう思う』は、(ウ)参加者や加入、脱退が自由であることが望ましい(89.6%)が9割で最も高く、次いで(エ)自分の関心のある身近なことが望ましい(84.1%)、(イ)地域全体の課題解決につながることを望ましい(82.2%)となっている。

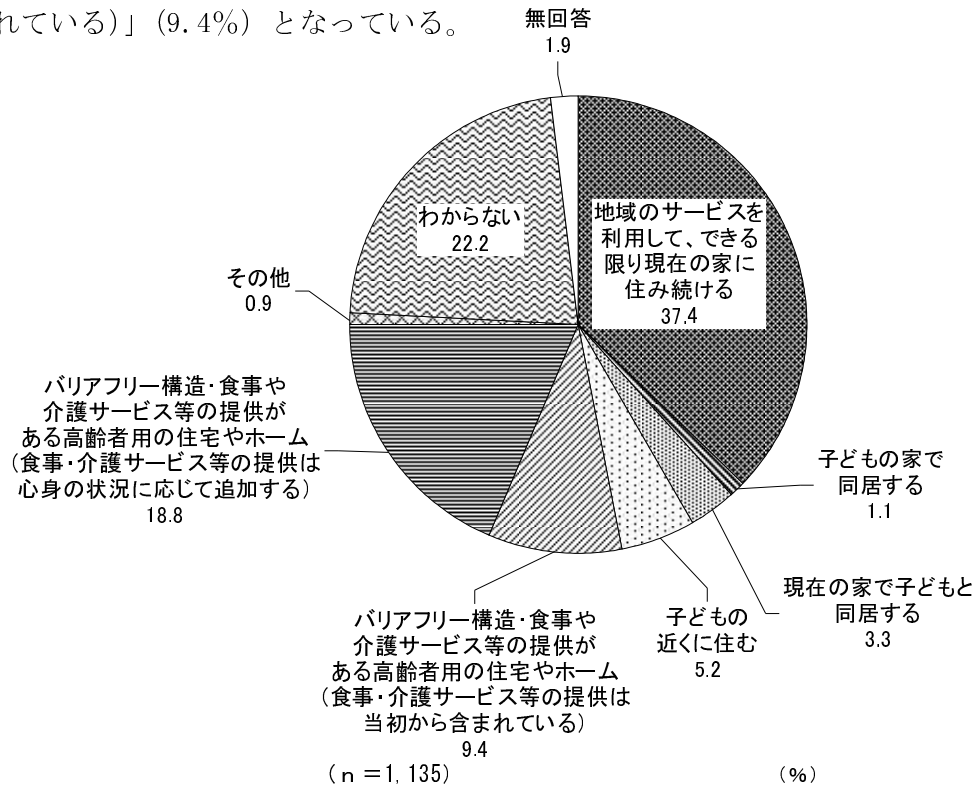
一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」の2つを合わせた『そう思わない』は、(オ)達成感のある、自己実現につながることを望ましい(23.5%)と(キ)家族や身近な知人や仲間誘われることが望ましい(23.5%)が2割を超えて高く、次いで(ア)地域住民が一体となって協力することが望ましい(19.4%)となっている。



10. 在宅療養

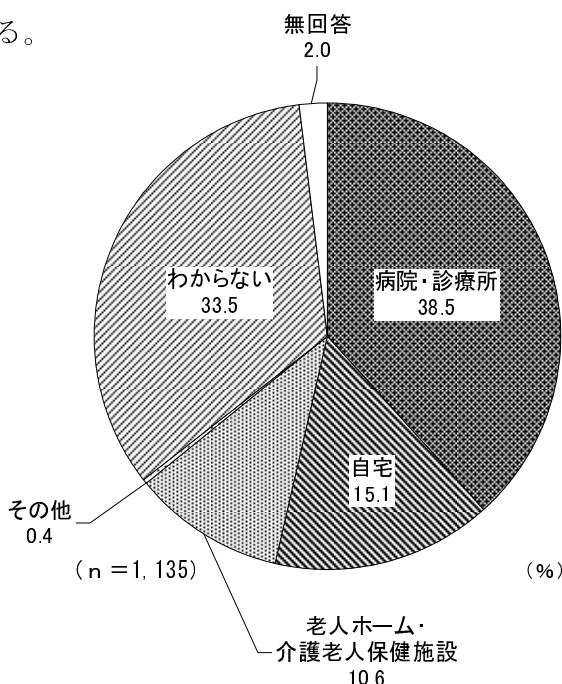
(1) 最期までどのように住みたいか

「地域のサービスを利用して、できる限り現在の家に住み続ける」(37.4%)が4割近くで最も高く、次いで「バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム(食事・介護サービス等の提供は心身の状況に応じて追加する)」(18.8%)、「バリアフリー構造・食事や介護サービス等の提供がある高齢者用の住宅やホーム(食事・介護サービス等の提供は当初から含まれている)」(9.4%)となっている。



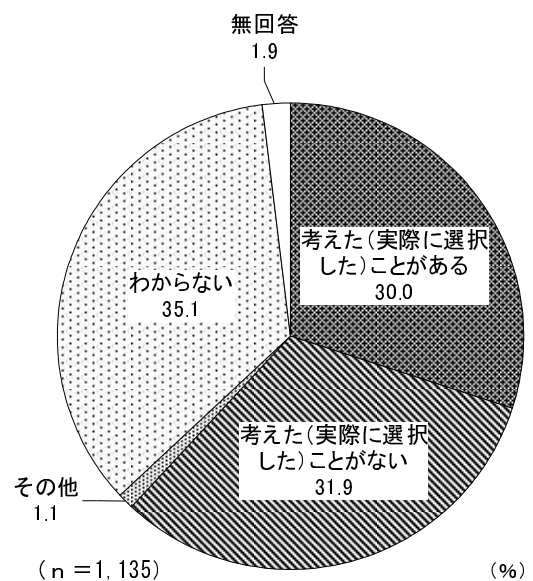
(2) 実際に最期を迎えると思う場所

「病院・診療所」(38.5%)が4割近くで最も高く、次いで「自宅」(15.1%)、「老人ホーム・介護老人保健施設」(10.6%)となっている。



(3) 在宅療養を考えた経験

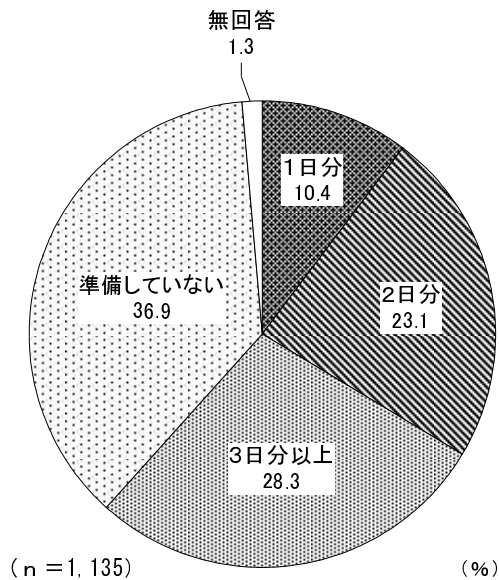
「考えた(実際に選択した)ことがある」(30.0%)が3割、「考えた(実際に選択した)ことがない」(31.9%)は3割を超えている。



11. 防災対策

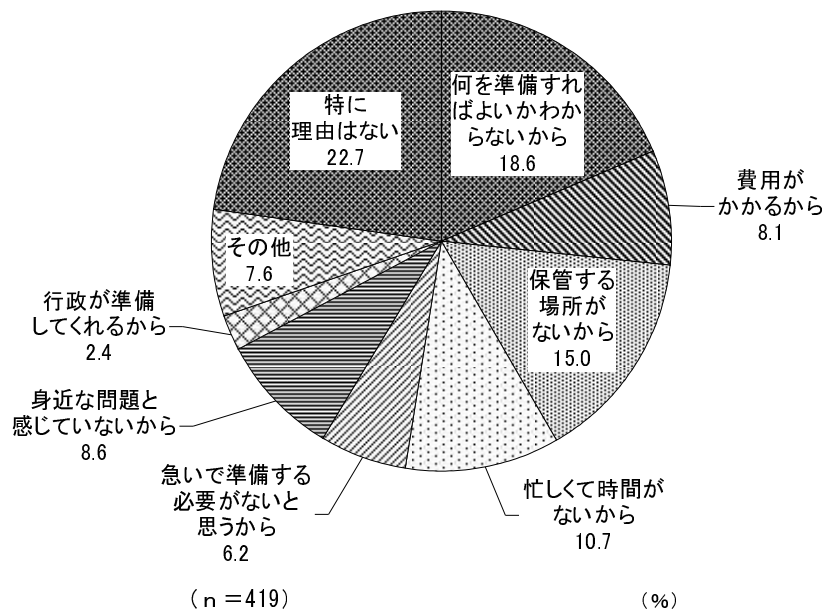
(1) 食料の備蓄状況

「1日分」(10.4%)が1割、「2日分」(23.1%)は2割を超え、「3日分以上」(28.3%)は3割近くとなっている。一方、「準備していない」(36.9%)は4割近くとなっている。



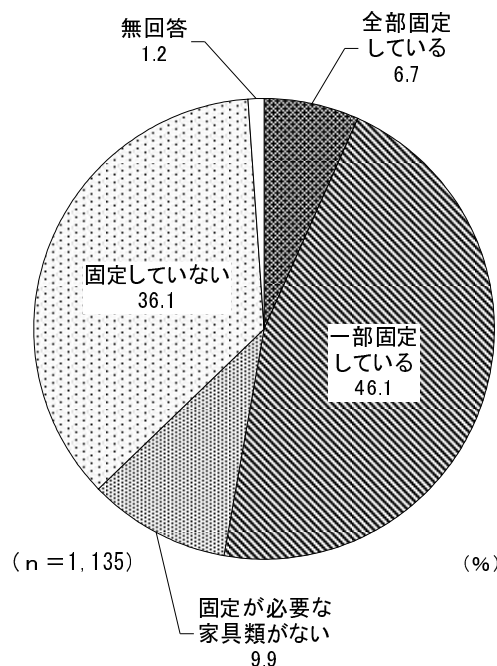
(2) 食料を準備していない理由

食料を「準備していない」と回答した方(419人)に、その理由を聞いたところ、「特に理由はない」(22.7%)が2割を超えて最も高く、次いで「何を準備すればよいかわからないから」(18.6%)、「保管する場所がないから」(15.0%)、「忙しくて時間がないから」(10.7%)となっている。



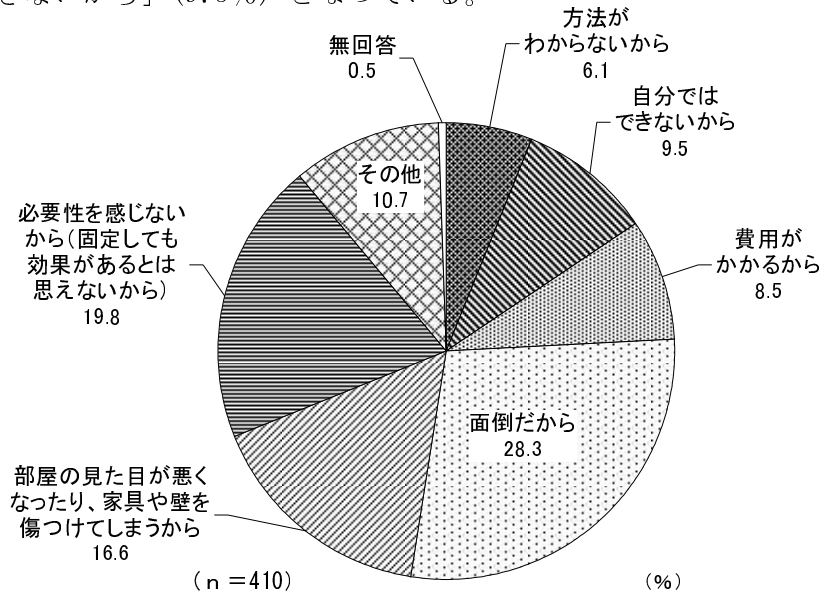
(3) 家具類の固定状況

「全部固定している」(6.7%)が1割近く、「一部固定している」(46.1%)は4割半ばとなっている。一方、「固定していない」(36.1%)は3割半ばとなっている。



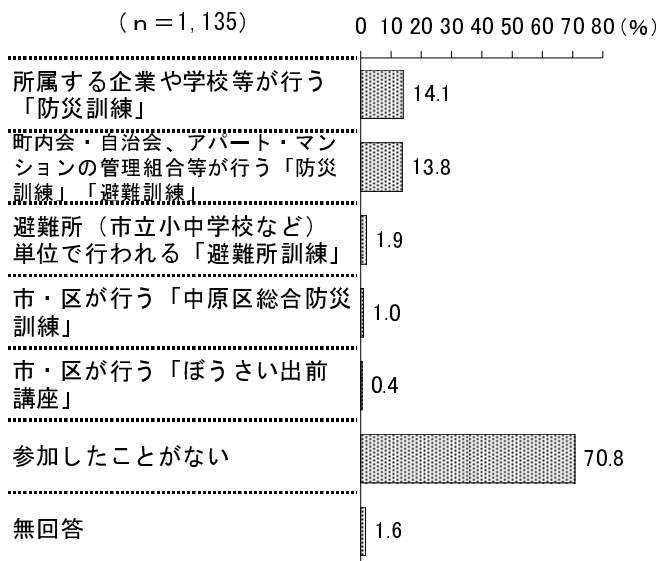
(4) 家具類を固定していない理由

家具類を「固定していない」と回答した方(410人)に、その理由を聞いたところ、「面倒だから」(28.3%)が3割近くで最も高く、次いで「必要性を感じないから(固定しても効果があるとは思えないから)」(19.8%)、「部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから」(16.6%)、「自分ではできないから」(9.5%)となっている。



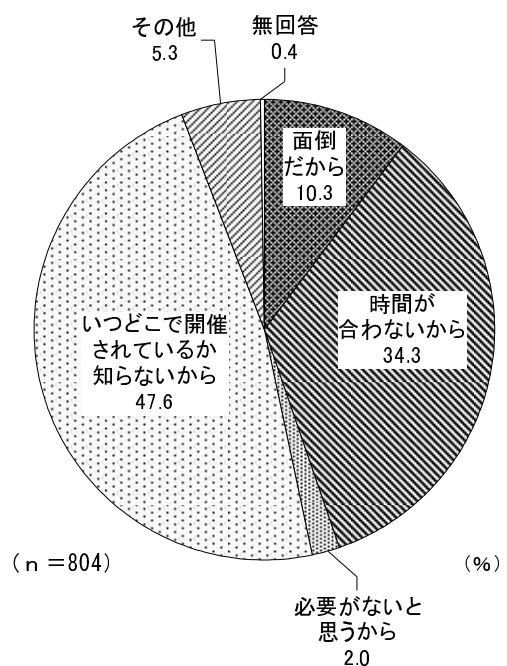
(5) 地域で行われる訓練への参加経験

「所属する企業や学校等が行う『防災訓練』」(14.1%)が1割半ばで最も高く、次いで「町内会・自治会、アパート・マンションの管理組合等が行う『防災訓練』『避難訓練』」(13.8%)となっている。一方、「参加したことがない」(70.8%)は約7割となっている。



(6) 地域で行われる訓練に参加していない理由

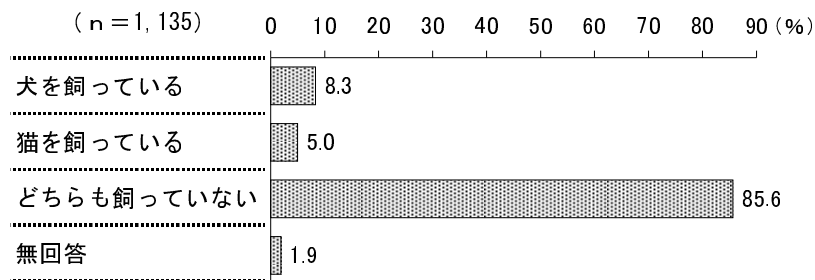
地域で行われる訓練に「参加したことがない」と回答した方(804人)に、その理由を聞いたところ、「いつどこで開催されているか知らないから」(47.6%)が5割近くで最も高く、次いで「時間が合わないから」(34.3%)、「面倒だから」(10.3%)となっている。



12. ペットに関する防災対策

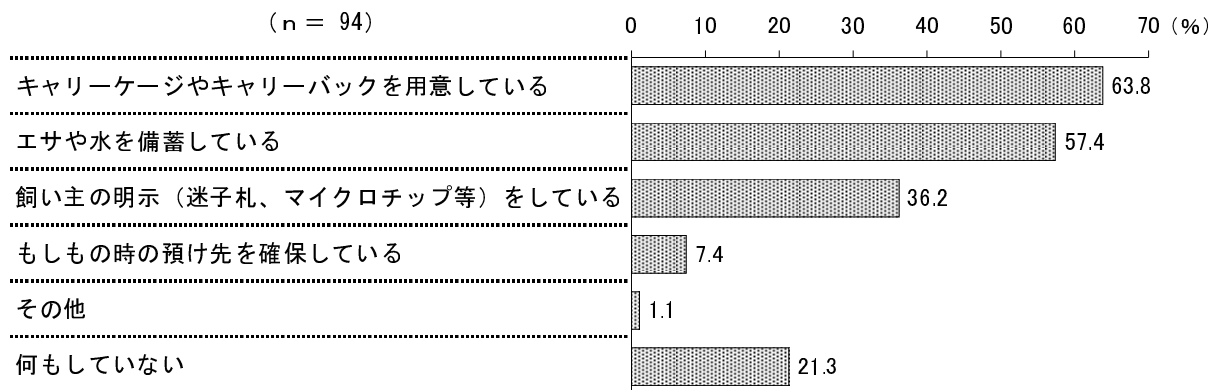
(1) 犬や猫の飼育状況

「犬を飼っている」(8.3%)は1割近く、「猫を飼っている」(5.0%)はわずかとなっている。



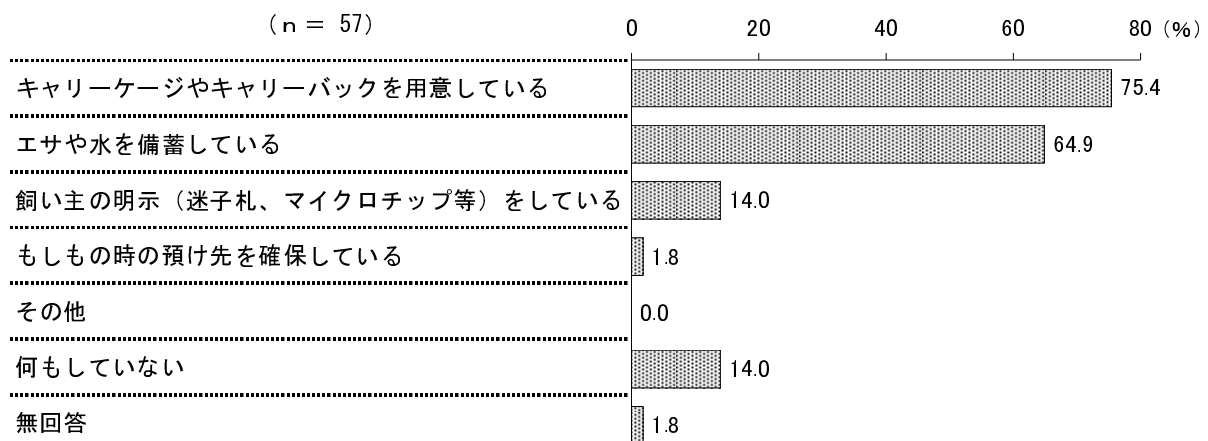
(2) 犬のための防災対策の状況

「犬を飼っている」と回答した方(94人)に、地震などの災害に備えて、ペットのための対策をしているか聞いたところ、「キャリーケージやキャリーバックを用意している」(63.8%)が6割を超えて最も高く、次いで「エサや水を備蓄している」(57.4%)、「飼い主の明示(迷子札、マイクロチップ等)をしている」(36.2%)となっている。



(3) 猫のための防災対策の状況

「猫を飼っている」と回答した方(57人)に、地震などの災害に備えて、ペットのための対策をしているか聞いたところ、「キャリーケージやキャリーバックを用意している」(75.4%)が7割半ばで最も高く、次いで「エサや水を備蓄している」(64.9%)、「飼い主の明示(迷子札、マイクロチップ等)をしている」(14.0%)となっている。



中原区区民アンケート 概要版

平成30年9月

川崎市中原区役所まちづくり推進部企画課
〒211-8570 川崎市中原区小杉町3-245

電話 (044) 744-3149
FAX (044) 744-3340